

円盤と宇宙哲学の研究誌

—日本GAP—

ニューズレター

No. 34

日本GAPニューズレター

—1967—

第34号目次

—遺稿— 心を持ち変えるならば 奇跡が起こる	G・アダムスキー	1
月面の神秘の塔		3
予告と質疑応答	C・A・ハニー	4
なぜアダムスキーが選ばれたか	ハンス・ペテルセン	9
円盤を撮影したすばらしき女性	ロナルド・キャズウェル	12
提案します		16
編集後記		17

心を持ち変えるならば

奇跡が起こる

G・アダムスキー

人間は各種の径路を通じて自分の心をより高度な意識の状態にすることができる。自分の想念を変えらば肉体をも変えることができる。想念は肉体の支配権を持つからである。人間が自分の内部に起こす想念は自分の方へ類似の状態を引きよせる。自分が意識的な知覚力において拡大しようとすれば、偏見とか不和などの古い習慣的想念を忘れて、人間は無限の存在であることと理解するようにしなければならない。この種の想念は肉体内の誤った諸状態（病氣）を消滅させるのに役立つのである。こうした感覚は自分自身を理解し始めるにつれてわき起こるのである。それ以外の機会にわき起こることはない。人間の意識は巨大な変圧器のようなもので、だからこそわれわれは望むとおりの力を取り入れて、それを肉体の一部から別な部分へ移すことができるのである。

われわれが想念の中にひそむ意識的な力に気づくならば、完全に肉体を支配することができる。これが十分に行なわれなるときは如何なる治療を試みてもだめである。ゆえに想念の意識的な力を理解することが如何に重要であるかがわかる。（注||想念の意識的な力とは、想念の物理的、機械的な力と対比して用いられた語のように思われる）われわれの心の意識（注||肉体人間の意識）

が宇宙の意識と完全に一致するならばそれは無限となる。自分が何であるかを知ったならば、次に自分の望む物または状態をしっかりと心の中に描き、望まない物事を排除しなければならぬ。自分の望む物事がそのとき正しいものであるならば必ずそれは実現する。もしそのとき実現しなくても、いつか適当なときにその望みの物を得るのである。ただし本人は永遠の宇宙の法則の働きを信じてそれを確信しなければならない。

これを言いかえると、あなたが自分の生活の状態を改良しようとするならば、あなたは自分の心を持ち変えて、望ましい結果が必ず生じるといふ信念を持つ必要がある。もしあなたの心の中に少しでも疑惑が起こるならば、望ましい状態の実現をさまたげることになる。一粒のカラシ種ほどの小さな疑惑が生じても実現をさまたげるが、一方何の疑惑もなく一粒のカラシ種ほどの大きさの信念があるならば、やがて望ましい状態が実現するのである。「自分は立ちあがることができる。だから立ちあがろう。そしてよき物事が起こるのである！」という確固たる信念を想念の中に持たねばならない。人間はよき物事を望み、それが得られることがわかっていながらゆえに野蛮人の状態から現代の文明人へと進歩してきたのである。不幸にして現代の人間は神の教理を信じないで、あらゆる物やあらゆる人間を利用しようとしているのである。人間の生活がこうまで複雑になる前は、人間は一定期間使用できる量以上に物をたくわえなかったが、今日は多数の人がおおよそ使用できる物すべてを得ようとし、同胞の欠乏については何も考えない。昔の素朴な人々はわれわれが持っているような知識は持たなかったであろうが、大抵の場合もっと公正であった。

の人々は自分の想念を支配することができたが、現代人はそんな支配はできないという強い肉体人間的概念にとらわれてしまっている。ゆえに人間は想念を支配できるのにそれをやらないうで特性を低下させている。想念に自分自身を支配させてはいけないのだ。

神なる創造者にたいする信頼にとつてかわって恐怖が主座を占めた。現代人は確信するよりも混乱の状態で生きている。今日の人間はあらゆる人やあらゆる物を恐れている。人間はだれしも他人を傷つけるほどの力をそなえていることがわかっている。これと同じ力を用いて他人が自分を傷つけはしなかつたか、恐れるのである。人間が時間をかけて自分がとつてきたあらゆる手段を分析したならば、自分の想念や周囲のすべての物を現在支配下にしていることだろう。

われわれは電気について同じ原理を見出すことができる。電気が誤って用いられると人間を殺すけれども、適当に用いられるならば役立つのである。意識的な想念も同様である。それは人を殺すほどの力を持っている。

われわれがこの力の用い方を知るならばそれは自分の召使いとなる。誤って用いると人間を破壊するが、正しく用いるならば生活に調和ある状態をもたらす。永続的な喜びはわれわれが肉体人間の心の主人になることを知ったときにやってくる。人間は自由意志を与えられているので選択は個人次第である。われわれが幸福と永遠の生命の理解を願うならば、自分の内部にひそんでいる自分を導いている、父の意志（神の意志）に自分の意志を服従させることが必要である。父は決してわれわれ人間を他人や何物かに支配されることを望んではいない。いわゆる心が正しい

支配下におかれると、それは適当な場所で適当なときに適当な物事をなし、人間の利益のために働くのである。これがなされれば人間は創造主の目的にかなっていることになる。これが理解されなければ肉体人間の心は人間をあやつり、本人は恐怖につきまといわれるのだ。暗い裏通りにいる人はあたりが恐ろしくなってきた前方が見えないために自分の足どりに用心深くなる。いわゆる肉体人間の心もこの暗黒の中にいて、自分を傷つけたり行手をさまたげたりするものがあるのではないかと心配して、自分の足どりをたえず恐れているのである。

だが或る人々は、導きの神の手綱を投げ出してしまい、今やその結果として多くの悲しみや苦痛に悩んでおり、結局何が間違っているという事実が目覚めようとしている。あなたはその一人で、援助を求めて宇宙をのぞきこもうとしている。自分をよく理解するためにより高い英知のほうへ帰ろうとしている。あなたは父のもとへ帰ってゆく息子である。あなたは世の中へ出かけて自分の道を切り開くことができるかと考えたが、生活の諸状態をコントロールできないことを知って、自分の肉体のセンスマインド（心）を支配する方法を知るために父のもとへ帰ろうとしている。言いかえれば、あなたは自分が住んでいる世界を理解するには、因のもとへ帰らねばならないこと、結果（現象）の中に生きてはならないことを知り始めているのである。

月面の神秘の塔

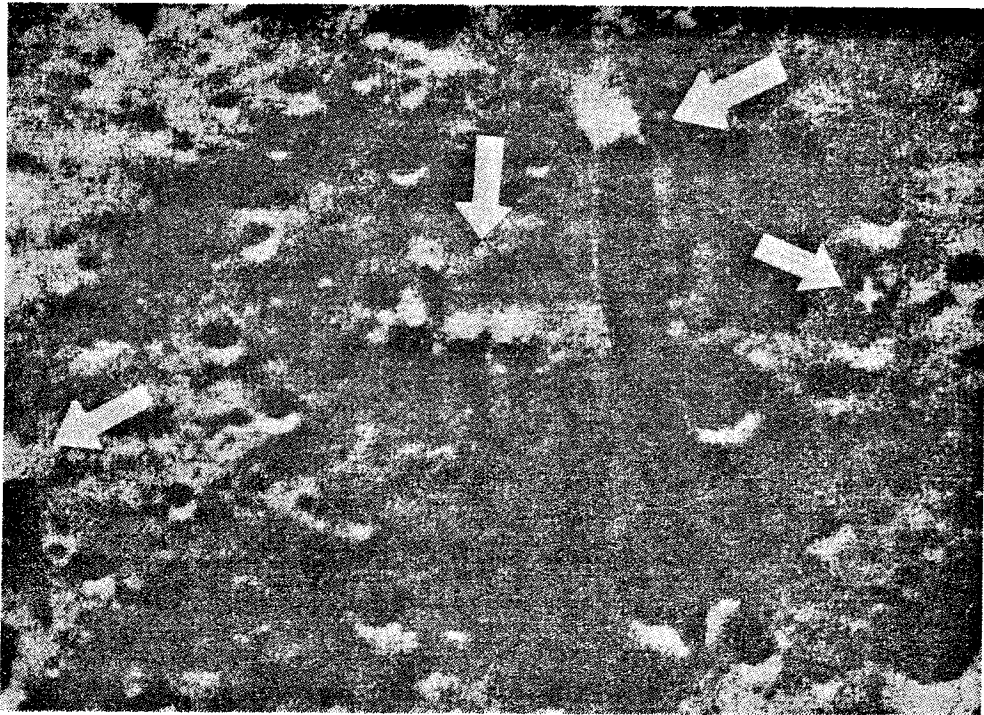
(パサデナ11月22日UPI) 高く細長いピラミッドのような尖塔がルナ・オービター2号撮影の月面写真に現われた!

オービターは宇宙飛行士用の安全適当な地点を探しながら月を廻っているうち、約29マイル真上からこの写真を撮影した。受信後元のサイズの約5倍に引き伸ばされたこの白黒写真は、可能性ある13種の着陸地点の第4番目の地域を約750×755フィートにわたって写したものである。

これはケァリフォルニア工科大学のジェット推進研究所で公開されたが、ここで米航空宇宙局のスポークスマンは、6個の突起物のうちで最大のものは基部の巾50フィート、40ないし50フィートの高さがあると声明した。「日光の陰影から判断すると、1個の物体はジョージ・ワシントン記念碑のように見える」とスポークスマンは言う。「小さいほうの物体はアイスクリームの容器をさかさにしたようだ。今までこんな物を見たことがない」

オービターがこの地域を撮影したときは、太陽は月の二週間にわたる長い“一日”の日の出現象のあいだ月の地平線上約11度の角度の位置にあった。それで長い影ができたわけである。これは月の“静の海”の一部で、この写真は南ケァリフォルニアのモハーヴィ砂漠にあるゴールドストーン追跡センターが月曜日に受信したものである。

下の写真が月面の尖塔群。(矢印の個所) 不思議な白十字も見える。



予告と質疑応答

C · A · ハニ

ルナ・オービター二号が発見した月面の神秘の塔について特別な注意をうながしたいと思う。読者は記憶しておられるだろうが、長いあいだ私は漸進的な教育計画の一部として月または他の惑星の古代文明の人工物が発見されたことが大衆に知らされると予言してきた。これが意味するところはこの民族は百万年も前に死滅したということになるが、同時にこの地球以外の宇宙空間にかつて別な知的生物が存在したという事実にも多くの人は注目しなければならぬことになる。いずれ現在もお宇宙空間に人類が存在していることを示す新しい発見が公開されるだろう。

このことは現在起こっているようだ。ルナ・オービター二号による発見は月面に知的民族の人工物が発見されたことを示唆するものとしてきわめて意味慎重である。科学者連は現在月に人間がいることをほめかしてはいない。例によって否定論も述べられているので、鈍感な人ならばルナ・オービターの発見に驚きはしないだろう。

近い将来にもっと有力な証拠が出現するのを期待してよい。そのなかには現在月には人間がいるという事実も含まれている。

以下は私が信じていることで、しかも私が十分な科学的証拠を持っていると考えている事柄である。

◎近隣の惑星群のすべてにはわれわれと同様の人類が住んでいる。人間の生命を維持する基地が月のこちら側にあるが、それは通常保護ドームで覆われていて、必要とあらば移動が可能である。月の低地では人は生きて呼吸することができる。特に月の裏側はそうである。

◎金星は人間が住むのに温度が高すぎることはない。そこには約十億の人間が住んでいる。金星は地球と同じほどの温度で、大気の上層部には地球よりも多くの水蒸気があることを示す科学的な証拠が存在する。

◎火星にもわれわれと同様の数百万の人がいて、地球の各地に似た適当な気候のもとに住んでいる。そこには地球同様夏と冬の季節がある。

◎人間の生まれかわりは実験・観察による科学的証拠によって裏付けされる。そしてこれは全く道理にかなった唯一の、死後説である。これは西紀三二五年まで教会によって教えられたが、その年異教徒の考え方を取り入れた人々によって議決により教えから除外された。

◎旧約聖書に出てくる天使たちは実際には他の惑星から地球へ来た人々であって、神の予言者とみなされていた指導者連とコンタクトしたのである。

◎イエスは他の惑星すなわち金星から地球へ来た高度に進化した人であった。天空から地球へ来る人は神の天使と考えられていた。これは神と天国だけが、雲間のあるそこに存在したことをだれもが、知っていたからである。

◎他の惑星から来た多数の人は肉体を持つ隣人として—あなたの

隣人であるかもしれない——今われわれのあいだで生活している。その隣人は別な惑星で生まれて、いわゆる空飛ぶ円盤に乗って地球へ来たのかもしれない。加うるに、生まれかわりという手段によって、この世界に住む多数の人は進歩した惑星からこの地球上で生まれかわり、この地球のために予定された計画にそった段取りを一生懸命に遂行しているかもしれない。そのなかには自分の身元に気づいていない人もあろうし、このような計画の一員であることさえ知らないかもしれない。

◎円盤に乗ったと称する殆どのコンタクティー（宇宙人に会ったと称する人）の話はウソである。だがこの人たちの多くは自分がウソをついていることに気づいていない。これは彼らが円盤に、心霊的に乗ったのであって、その体験がホンモノだと思っているからである。しかし本人以外の人にとってはその体験はホンモノではない。本人の心の産物とみなされるべきである。高度に発達した或る人々には真実の靈魂遊離状態が発生するが、この人々は他の惑星の人間とコンタクトしたと称してしゃべり歩いたりしない。この真実の体験の殆どは、進歩した惑星から来て地球で生まれかわったかまたは宇宙船で来た人たちに発生する。真の感受力を持つ人は死者と霊交したと称したり、チャップの如き小道具を用いて交霊会を催したり、このようなことを演じて人々から金をまきあげたりするようなことは絶対にしない。

◎政府は他の惑星から多数の人が地球へ来たことを知っていて、諸計画において惑星人と共に働いているのである。また政府は、他の惑星から来た人間の存在とその真実性を知らせるように大衆を教育しようとしている。しかし一般人は長年の教化によって心

に染み込んだ概念からかけ離れた新しい概念を容易に受け入れようとはしない。右の新しい教育計画はすでに二十年以上にもわたっており、まだ二、三年予定されている。

◎私はまた次のように予告しよう。今後円盤の写真を撮影した人のなかには、このような写真が一般に公開されることを望まない円盤のパイロットの、代理人”によってひそかに盗まれることがあるかもしれない。すでに、自動車の上に滞空していたUFOの写真を所有していることをだれにも語らなかつた一人の男が、彼の暗室へ押し入った人間によって乾燥中のフィルムを盗まれたというケースもある。それ以外の物は盗まれなかつた。だれも本人が写真を所有していることを知っているはずはない。ただしUFOに乗っていた人だけは別だが。

近い将来にはもっと奇怪な事件が起こるだろう。そしてUFO研究活動に関連した多数の人々の生活に多大の変化が起こるだろう。毎日ますますおもしろくなってくる。

問 あなたがアダムスキーによれば月には基地があつて人間が住んでいるということになっています。これが事実とすれば月の裏側を写した写真類は何かを示すはずですが、どれも人間の生活の証拠を示していません。なぜですか。

答 これまでわずかな写真が一般に公開されただけですが、まだ他に数百枚の写真が撮られています。この一つの理由は、大抵の月面写真は互いに似かよつたものばかりで公開する価値はないという事実によります。私の意見では、一枚の異常な写真が撮られたとしてもそれは公開されないでむしろ極秘にされるでしょう。

これは、人工物であるらしい数個の物体を写した最近のルナ・オリビター二号の写真に関する場合に於てはまるように思われます。ラジオのニューズによりますと、オリビター二号は高い、ワシントン記念碑型の物体を写し、アイスクリームの容器をさかさにしたような数個の物体がそれを取り囲んでいるということです。この高い尖塔は四十フィートから七十五フィートのあいだの高さがあります。

ニューズによりますと、これらの物体はあたかも人工物であるかのように見えるということです（注||別掲写真参照）。私はこれ以上の詳細を聞いていませんし、その解説記事を探しましたがだめでした。目下私を知る限りではこの写真は発表されていません（注||これより後に発表された）。

当然、月面上で人工物らしく見える物体のような驚くべき物ならば広く注視の的になっていくはずですが、たしかにそれは殆ど一日おきに公開される「荒涼型」月面写真以上のすばらしいものでしょう。ところが多くの写真には何も異常な物が写っていないので、故意に発表されないと考えてもおかしくはありません。

これまでに公開された写真は荒涼地帯のものであるばかりでなく、あまりに遠方から写されたがために、現われたかもしれない生命のシルシを示してはいません。もちろん例外としては、生命のない荒涼たる地域に着陸したサーヴェヤーによって大写しに撮られた写真もあります。加うるに月のこちら側の殆どは荒涼地帯です。月のこちら側の写真としては、生命が存在するかもしれない噴火口の底で写されない限り、生命を示すような写真を得る機会はずがないでしょう。

アダムスキーが月面上で撮影したと称する写真（複数）を、私は見たことがあります。それには入口が開いた格納庫型の建物の内部を背景に人々が立っている光景が写っていました。もちろんアダムスキーも他の如何なる人もその写真がホンモノだと立証することはできませんし、まただれもそれがニセモノだと立証することもできません。それが真実の写真か彼が欺いていたかは彼だけが知っていたことです。その写真が現在どこにあるかは不明です。彼の親しい仲間の多くでさえも彼がそんな写真を所持していたことを知りませんでした。彼は決して公開しなかつた多くの物を持っていたのです。

私は月の両側には人間がいると思います。また、人工物は宇宙飛行士によって発見され、おそらく政府によって月の人間が確認される前に、一般へ洩らされると思います。この意見を裏書きする証拠を持ってはいませんが、いつかその証拠を手に入れるつもりです。

問 円盤はどのようにしてそれ自体の重力場を発生するのですか。私は機体の回転によるのだと思いましたが、それ以上の何かがあるにちがひありません。機体が無重力になった後は吸引と反発の法則によって動くだけなのですか。たとえば機体と地球の両方がマイナスであれば互いに反発するというふうには！。

答 各国は今もなお必死になってこの問題の解答を求めようとしています。重力推進機関に関するあらゆる研究は極秘にされていて一般には洩らされていません。この解決の糸口を発見したと思っている人はだれでも自己防衛のために秘密にしておくほうが賢明です。この分野においては宇宙人は地球人をさほど援助してく

れないと思います。地球人はまだこのような力を与えられてよいほどに精神的に安定していません。少なくとも、以上がこの問題に関する私の意見です。

問 色光が人間に影響を与え得るか。可能とすればその理由は？ またそれは病氣治療に応用できますか。

答 色光には治療力があるといつてあらゆる種類の主張をしてきた人々によって多年応用されています。実際多くの人が良好な結果を報告しています。というのは色光の応用は医者が必要だと思うときに患者に与える砂糖つぶにも似た単なる丸薬と同じものにするにすぎないからです。患者が色光は自分にとって有効だと信じるならば良好な結果が生じるかもしれません。この場合病氣を治すのは色光ではなくて、患者自身の心です。

かつて米海軍のテストで数百名の人がホンモノの酔い丸薬を与えられ、同数の別な人が砂糖の丸薬を与えられました。ところがテストにおいて、酔い丸薬に飲まなかった人の率は両方のグループで殆ど全く同じでした。

現代医学の治療法も同じ方向をたどっています。殆どあらゆるケースにおいてただ一錠のアスピリンがいわゆる特効薬の効果をあげたりします。ただ必要なのは患者が実際に何かを信ずることであつて、そうすれば暗示にかかりやすい人は実際に効果があるうがあるまいが効果があつたと感じるのです。一般人は盲目的な羊にきわめてよく似ています。たとえば、このいわゆる文明の時代に多数の歯科医は弗化物が虫歯予防に役立つと実際に信じています。彼らはたとえば「米國歯科医師会のような団体には絶対に誤りはない」というような考えを吹き込まれて教育されてきたた

めに右の事柄を信じているのです。もしこうした団体が「黒は白である」と言明すれば、何の調査もされなくて黒は白になるでしょう。同様に、一般大衆はだれかが因習にとらわれない方法で何かを発見したと主張すればそれは真実であるにちがいないと思います。ゆえに権威団体は利己的な理由でその発見者を迫害しているにすぎません。殆どのペテン師はやはりペテン師であつて、不正という理由で追求されますが、もし米國医師会が声明を発表すればその声明の殆どは真実となり、真実でない者までが文句なしに認められます。ところが個人が声明を発表してもその内容の殆どは真実でないことにされて、真実な人までが実際には捨てられるのです。

問 コラル・E・ローレンセンの著書「空飛ぶ円盤のいたすら」の基本的な主旨について説明して下さい。この主旨は、他の惑星または太陽系は侵略の準備で地球を観察してきたこと、この目的を促進するために武器をテストしてきたのだとなつていますが、答 その考え方の殆どに同意できます。ただし武器テストは別です。しかしこれまでに何度も書きましたように、侵略はすでに始まつていて、潜入工作はきわめて静かに行なわれています。目下各國政府に潜入が行なわれていて、人々は起こつていない物事を正確に知るための大切な立場にあります。この活動のすべては数百年間企てられてきた或る予定の計画に従つています。

ご存知のように、教会によってはイエスキリストが多数の天使と共に再び地上へ来ると教えているのがあります。旧約聖書に出てくる天使たちは他の惑星から来た人々ですし、イエスは実際には金星から来た人でしたから、もしイエスが天使たちと共に再び

地球へ帰ってきて、聖書が予言しているように世界を支配するならば、これは「他の惑星からの侵略」といえないこともないでしょう。聖書の予言では更に、この世界の各国はイエスにたいして戦争を始め、彼を真のイエスだとは認めないだろうと述べています。おそらく彼が円盤の大編隊を指揮して地球へ帰ってくれば、人々はその着陸に反対して戦うでしょう。

このような戦争を阻止する一つのおだやかな方法は、他の惑星の人々を地球に植民させることでしょう。そのなかには宇宙船で来る人もあろうし、なかには地球で生まれかわる人もいるでしょう。目下地球上には生まれかわりをも含めて十四万四千人も他の惑星出身者が在住していると思われませんが、一般人はそのことに気づいていません。もちろんこれは推測にすぎませんが、たぶんそのとおりでしょう。

問 あなたは月面写真中に人工物らしい模様が写っている例を知っていますか。

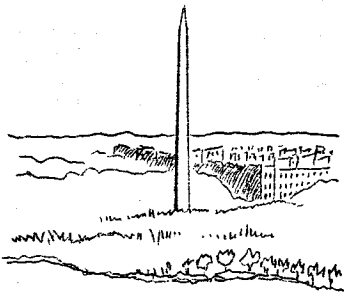
答 知っています。月の尖塔の写真中で、最大の尖塔の下部に白い十字が現われています（注：別掲写真参照）。また一九六五年二月十一日付ライフ誌二十八ページに印刷されたルナ四号の写真を見れば、中央下部に草の葉に似た奇妙な物が写っており、少し地上に突き出ているかのように影を投げています。何かの植物の葉のようです。

問 あなたはなぜアダムスキの円盤写真がホンモノであると確信するのですか。アダムスキの円盤は真実の機械を写したもので、彼のねつ造ではないことを証明するのは可能だと思いませんか。

答 確信するよりほかに仕方がないので確信するのです。あらゆる

る傍証がそれがホンモノであることを裏書きしています。それをニセモノとした反証はまだありません。多年にわたって数百の目撃者が同じ物を見ていますし、別な写真類がそれを支持しています。正射影法によってそれが模型でなく真実の宇宙船であることを証明しました。私はアダムスキの円盤写真よりもっとすぐれた円盤写真類を見ましたが、それらは船体を非常に詳細に写しています。また飛行中の円盤を写したカラー映画も見ましたが、それもアダムスキの写真と殆ど同じほど詳細に写っていて、到底ニセモノとは思えませんでした。

これを世間に証明するのになぜうまくゆかないかといいますと、だれもが求めているようなタイプの証拠というものは、自動車の存在を証明するために提出されるようなわけのものではありません（そんな簡単なものではない）からです。とにかくアダムスキ氏の写真が真実なものであるという同氏の主張を実証するには多年にわたって十分な証拠が出されています。



Q. ワシントン記念碑

なぜ
アダムスキー
が
選ばれたか

ハンス
・
ペテルセン

われわれは何度も次のような質問を受けた。ときにはうす笑いを浮かべた嘲笑者から、ときにはほんとうに関心はあるけれどもこの世界の人間とコンタクトしようとする宇宙人側の判断力がアイマイのように見えるために悩んでいる人からの質問である。

「なぜジョージ・アダムスキーでなければいけなかったのか？」
なぜハンバーガー行商人が世界へメッセージを伝えるために選ばれたのか？」（注||アダムスキーはハンバーガー行商人ではなかった）

「なぜ世界各国の政府の要人が宇宙人とコンタクトしなかったのか？ 当代一流の大科学者がまだ推測もしない、科学的事実を知っていると称するこの素性の知れない男は一体何者なのか？」
「殆ど教育を受けていないアダムスキーがなにゆえに地球へ重大なニュースを伝えるために他の惑星の人間によって選ばれたのか？」

「アダムスキーは『天使のような宇宙人』の童話製造業者である。彼は夢想家でホラ吹きだ。彼は地球を自滅から救うために地球へやって来るといふ空想的社会改革者のことや、他の惑星のすべては地球よりもはるかに進歩しているのだの、地球人はやっかい者だとか言っている。なぜアダムスキー自身が目覚めないのでか？」

さてアダムスキーは生前にハンバーガーを売りはしなかったが、あるいは売ったかもしれない。ハーヴァード大学の若手教授連さえも休日のアルバイトとして食品を売るではないか。アダムスキーは教え子の一人、アリス・K・ウエルズ女史がかつて所有していた食堂でときどき手伝っていた。この事実が悪口屋の俗物根性を満足させるとすれば彼らのなすがままにまかせよう。べつだんアダムスキーを聖書中の人物にたとえるわけではないが、イエスは弟子の足を洗ってやったという。だからというのでイエスは水虫治療薬の行商人だといわれたか？

世界の各国政府の要人たちは実はブラザーズとコンタクトしているのである。これを読む人はいずれわかるだろう。馬を水辺につれて行くことはできるがそれに水を飲ませることはできないのだ。（注||政治家とコンタクトしても効果があがらないの意）

各国政府の要人、世界の指導者層、政治家などはブラザーズの対象としてはきわめて無価値であるらしい。およそ大統領、首相、世界的政治家ほどに党派心の強い人種はいないのである。もちろん、世界を治める政治家は存在しない。世界政府というものが存在しないからだ。

大体、大統領、首相、党の第一書記などになるには、『愛国者』でなければならぬ。本人が米国人の伊達男だろうが、立派な田舎旦那の血統を持つ鈍感なロシア人だろうが、パイプをくわえておつに澄まし込んだ英国人だろうが、とにかく国家主義的な単純な頭脳の持主たる必要がある。近隣の惑星の人々からこの世界へ愛と友好のメッセージを伝えるのに、こんな者たちが何の役に立つだろう。たとえ大統領が愛国者の誇りを胸に秘めて右のメッセ

ージを伝えても敵国から笑いとばされ相手にされないだけのことだ。政治家は互いに宣伝戦で生きているのである。

国内だけでメッセージを発表したらどうかだ？ そんなことをすれば政党の原則を逸脱したとか、いやな共産主義國に加担しているのだとか、反米活動という最大の罪をおかしているのだと、非難されるだろう。こんな有様でどうして大統領や首相がうまくやれるだろう？

そこで高名な政治家といっても実は目的を達した政治屋にすぎないことがわかったために、コンタクトの別な方法が講じられたのである。

アダムスキーだけがコンタクティーではない。彼自身も常にそのことを言っていた。だがその仕事に大胆に立ち向かったのは彼であった。その名はパイオニアとして不滅となるだろう。

でも彼は教育を受けていない？ 一体彼が自分の知識を得意になつて科学者に話すような人間だと思つているのか！

アダムスキーはこの世で最上の「大学」で教育を受けた。彼は「生命大学」で教えを受けたのである。その学校では科学的「理論」とか、誤つて分類された科学的「事実」を学ぶのに障害になる物はない。そこでは天文学や天体物理学はまだ幼児期の段階にある空論の科学にすぎない。またそこに存在する無数の星々は人間の住む無数の惑星に熱と光を与えるためのものである。趣味のよい文人や夜空の光景を楽しむ人のために存在するのではないし、超新星を探そうと待ちかまえている打算的な人間の眼に、銀河系外のガスやあてずっぽうの化学物質のつまらぬ知識を伝える望遠鏡や分光器のために存在するのではない。

ブラザーズは天使だと？ そうかもしれない。訪問者は今も天使だろうか。それとも聖書の時代に空中から出現したときにそのように名づけられたのだろうか。推測は自由である。

一般の懐疑的な意見に対抗してアダムスキーは「宇宙的な至福」という心を静める飲物について説くのに遠慮しなかった。また彼はこの太陽系以外の「異邦人」——地球人をこころよく思わず、宇宙旅行が可能なほどに知的で技術的に進歩しているが、心のつらい空虚感を克服できない惑星の人々——についても素直に語った。われわれはこれにも注意しなければならぬ。

次のように言うことができる。もし他の惑星の人間が地球上へ入り込んで住むとしても——実際そうしているのだが——彼らの体格は地球人のそれと同じで、考え方はうんと進歩している。一般にそのとおりのだが、必ずしもそうとはいえない。正体を暴露した黒い勢力もあるからだ。

「なぜアダムスキーでなければいけなかったのか？」という質問にたいしては次のように答えよう。

アダムスキーはその生涯にわたる西洋と東洋の哲学・宗教の研究から得た宇宙の法則を伝えた人である。また自分の周囲に人々を集めて哲学を教えたり研究したりした。長年の実績をもつアマチュア天文学者でもある。自己拡張や金銭を求めた人ではない。哲学者というものは本来生命の探究者であり、真理の追求者である。アダムスキーは気の抜けたビルのような子供向哲学をふりかざしたまま焼け哲学者といわれてきた。たしかにブラザーズから伝えられた彼の「宇宙哲学」は簡単なものである。しかしそれは理解を容易にするために簡単にしたのである。賢人たちは簡単

さをあざ笑うだろうか？ 『車輪』ほどに簡単なものはないが、これがなければどんな機械でも複雑な作動はしない。

ここで一つ自問自答してみよう。

「アダムスキーは実際にどれほど役立ったか？ どのような実用的な提案を出したか？」

ジョージ・アダムスキーは如何なる人よりも万人の心を空飛ぶ円盤に向かわせた人である。敵だろうが支持者だろうが、とにかく世界中の人々が各種の言語で彼の本を読んだ。賛非両論のいずれにせよ無数の人がこの世界へ来る宇宙船と訪問者を話題にした。討論、講演、映画等、これらが海上の浮き荷のようにアダムスキーの航跡にただよった。このことは最も手ひどい攻撃者でさえも否定できない事柄である。

次に彼の提案の問題がある。大抵の人はロケットが打ち上げられてもそれは納税者の金の浪費だという誤った考えを持っている。世界中で宇宙開発計画にたいする非難の声が聞かれる。「金の浪費だ。なぜガン撲滅研究費に使用しないのか」等々。

「まず考えねばならぬのは、たとえ金が宇宙開発に使用されなくても、やはりガン撲滅研究には使用されなければならないことだ。使うからには金というものは何かに役立たねばならない。目下宇宙開発研究に使用しているほどの金をかけてまでガン撲滅研究を行なうほどの目あてはないのだ。（注）かつてアダムスキーは敵対的な惑星人の侵略にそなえて各国はあらゆる武器生産を中止し、かわりに宇宙船の開発建造に国力を傾注するべきだと説いたことがある。このためアダムスキーは真の平和論者ではないといつて非難した小児病患者がいた。次のように言う人があるかもしれない

い。それならギャンブルや喫煙、飲酒、その他の遊びに浪費される金、または毎年莫大な金で使用されている無数の活動費などをあてたらよいではないかと。

一発のロケット中につめこまれているのは金ではないことに気づかねばならない。ロケットとは多くの人間の手と頭脳によって組み立てられ見事に仕上げられている多くの金属、部品、燃料などである。金を流通させるのはこの人間という要素であり、それゆえに食料品屋もパン屋も金を受け取るし、政府も学校を建てたり警察を作ったり道路を建設したりすることができるのだ。

宇宙空間へ飛んで行くのは大量の金物にすぎない。ゆえに大資本家はその金物から金の爆弾を作っていることにもなる。だから金はもう一度新しい計画のために流通し、橋やダムを作ったり入れ歯を研究したり、小市民にポケットへ手を入れさせてガン研究のためにささやかな寄付金を出させたりするのである。

金そのものは宇宙空間へ逃げはしない。言いかえれば、これが数年前アダムスキーの言ったことなのである。そのとき彼は宇宙開発経済計画なるものをとらえた。ただ敵対者だけが自分の荒々しい鼓動を聴くの忙しくて、せっかくアダムスキーが宇宙開発にたいしてすばらしく立派な理由を見出したのに耳をかたむけようとはしなかった。

この記事を読む人は宇宙開発経済計画についてアダムスキーが何を言っているかがわかるだろう。これこそわれわれが世界の指導者に呼びかけたい事柄なのである。そして地球というこの時限爆弾のフューズを切る良識を望む。地球を安定させるためには宇宙開発が必要なのである。

円盤を撮影した

すばらしき女性

ロナルド・キャズウエル

男に生まれるべきだったとしばしば考えている活動的な女性が一人米国にいる。「だってこれは男の世界のことで、男のほうが女よりも権威者の風格をそなえているのですから」というのがその理由。

にもかかわらず本人はその仕事を行なう義務を心得ているがゆえに黙々と遂行している。それが本人に与えられた仕事であることがわかってはいるし、しかも本人はこれに打ち込んでいる女性であるからだ。彼女がやっている仕事は十分に報われており、権威者と同胞の両方から高く注目されている。

彼女が権威者から認められ注目されているということは、彼女の郵便物が監視されたり、ときには盗まれたり、電話が盗聴されたり、家の中のフィルムや他の資料が盗まれたりすることからわかるのである。同胞からは「といっても有難いことにその全部ではないが」嘲笑され、ある程度罵倒されたりする。その名はマドレーヌ・ロドファー。

問題は彼女がジョージ・アダムスキーを信じているということ、ワシントンの政府関係者に接近しながらアダムスキーのために活動したことなどにある。特に昨年（一九六五年）二月二十六日に自宅の前庭上空へ降下した一機の円盤をカラーフィルムに撮影するという特権を他の惑星から来た人々によって与えられたのが大問題なのだ。

彼女とその夫はアダムスキーの友人だったし、アダムスキーが死ぬ前に会った最後の友人でもあった。夫妻はアダムスキーが病床にある最後の数日間を看護ですごし、親しく話し合い、いけなくなつてから病院へかつぎ込み、他界する直前にマドレーヌは「あなたの仕事を引きついでやります」と約束したのである。彼女はIGAPO（世界GAP機構）のために次のように語っている。

「私は四十二才で背が高く、美人ではありません。ペンシルヴェイニア州に生まれ、これまでの殆どはヴァージニア州の美しいシェナンドー谷に住みました。私は今まで官吏で医療関係の書記でした。子供はありません。夫も十九年間官吏です。私の言葉には少し南部なまりがありますし、言葉使いには十分に改良の余地があります」

時折彼女がよくす通信は次のとおりだ。

「こうした円盤実写映画のフィルムを所有する人はだれでも必ず多くの疑い深い人に嘲笑されます。うぬほれが勝つのです」

「こちらワシントンでは私は手ひどい目に会っています。あらゆる非難をあびせられました。私のフィルムを見た政府の役人たちはそれが真実のものであることを知っていますが、何もしようとはしません」

「私はフィルムを航空宇宙局の高官連や上下院の地位の高い人たちに見せました。多数の政府要人に手紙を出しましたが、そのなかには大統領、副大統領も含まれています。彼らが手紙を受け取ったことはわかっていますが、これは彼らに刺激を与えて、現在起こっている事実を認めさせようというわけです」

われわれは米国の別な情報源によって右のロッドファー夫人がやってきた仕事のことを聞いている。町から町を旅して歩き、ときにはどこかのテレビ番組が中止になったという簡単な公告を見て、ひょっとすれば自分が出演させてもらえるかもしれないと思いついて、それに間に合うように夜に飛行機か列車にとび乗ったり、ときには講演でもらう手当てだけを持ってテレビやラジオに出演してはアダムスキーについて語り、過去二、三年以上にわたって撮影された宇宙船のフィルム（アダムスキー撮影のもの）を見せたり、また最近——一九六五年二月二十六日——メアリランドの自宅の庭でアダムスキーと一緒に撮影した円盤の映画フィルムを公開したりした。

二月二十六日の撮影に際しては、その日の日中いつでもカメラを持って準備しておくようにとあらかじめブラザーズ（別な惑星から来た人々）から二人は予告されていた。そしてできれば一機の円盤が庭へ飛来することになっていて、写真がなるべく鮮明に写るように円盤のフォースフィールドを極端に減ずる手筈になっていた。疑う人のために、動いている円盤を写すためである。

その日午後四時頃一機の円盤がやって来た。二人は最初それを居間の大きな屋根窓を通して目撃した。

「それは濃青色で八十ないし百フィートの高度でした」円盤が前庭の一本の樹木付近の空中でゆっくりと振り運動を続けているときに二人は撮影した。フィルムでは下部の球形着陸装置が出たりひっ込んだりするにつれてフォースフィールドが円盤の均整美をくずしてしまつたが、典型的なアダムスキー型円盤である。

このオリジナルフィルムの一部は、ユピーを作るために一九六

五年三月、アダムスキーがロチェスターへ行く途中、或るホテルに滞在中に盗まれた。

「空軍や官憲のスパイが彼のホテルに網を張っていたとジョージは語っていました」

「ジョージは私が撮影したフィルムをたいそう誇りにし、ワシントン新聞記者やその他あらゆる人にそのことを話しましたので、みんなは心配し、フィルムがショックを与えるのを恐れていました」

「彼はクリスマススの日に全く子供のようにしゃいでおり、とても楽しそうだったので、ブラザーズがあんなに接近して撮影させてくれたのです」

このフィルムは多くの都市や町で公開され、マドレーヌが解説し、アダムスキーの体験を語った。六十局以上にわたるテレビネットワークが、マイク・ダグラス・ショウの時間にこのフィルムを放送した（注：日本のテレビでも放送された）。彼女はモントリオールへ旅してテレビやラジオに出演したが、一方アダムスキー撮影のフィルムはワシントンのテレビ局で二度公開され、一度はその直後に一団の円盤がワシントン記念碑の上空を旋回するのが見られた。

彼女の友人といえはすべて新しい友達ばかりで、大半が官吏だった古い友達はどう訪ねてこない。しかし多数の新しい友が個人的に手紙や電話で連絡してくる。

罵倒はすいぶんある。特にテレビ放送のあいだ後にたえず干渉してきた政府の或る円盤調査機関のメンバーから少なからず罵倒されている。この機関は個人の人権と言論の自由を尊重してい

る民主主義国の誇りを保つ国でだれもが期待している道徳律のあらゆる教えを破っているのだ。彼らはこの記事を見て気づいたことと思う。そこでこの機関のリーダーに二、三の事実を知らせてやりたい。

マドレーヌ・ロドファーはアダムスキーがそうであったように孤立してはいない。彼女はアダムスキーと同様に賛嘆と好意と援助のさなかにある。アダムスキーが力という商標と世界中の信奉者の支持とによって抵抗ができたように、マドレーヌも男だけの特権ではない「忍耐力」と真相にたいする知識とでもって戦い抜くだろう。しかも彼女を支持するのにわれわれが（世界GAPが）ついでているではないか！

「他の惑星から来たブラザーズやシスターズは、地球人が歓迎しなかったからといって引き返してはいないことを私は知っています。ジョージは敵のために決してよるめきはしませんでした。私もたえまなく努力を続けるつもりです。私が間違っているときはみなさんが指摘して下さい。私の自我は両親、夫、ジョージなどに迎合したことはありません。私が間違っているときはこの人たちがはっきりと指摘してくれました。女だからといってくじけないつもりです。あちこちでトラブルが起こってもそれを忘れて努力し続けます。

私はワシントンで運動を起こしました。まさか女がそんなことをするとは政府も思わなかった運動です。宇宙委員会の部屋で彼らは頭をたれてすわり、私やイングリッドを見ようとはしませんでした。（注）イングリッド・ステックリングは米国東部で活躍しているマドレーヌの協力者）これは一九六五年一月にジョージ

の円盤フィルムを委員たちに公開した直後の光景です。私の撮ったフィルムは一九六五年四月に下院の少数の要人に公開しましたが、以来彼らとはたえず接していませんし、実写フィルムを一片ずつ贈呈してあります。まもなく私宛に通知が来ることになっています。

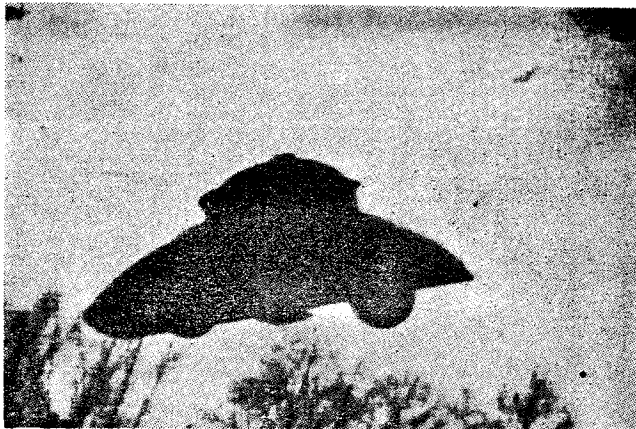
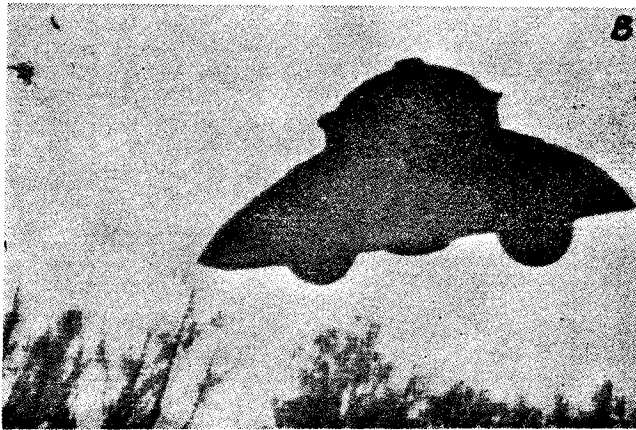
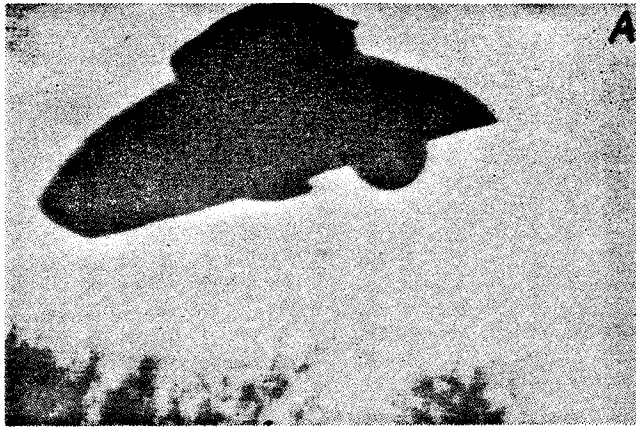
多数の人が飛行機が円盤を追跡するのを見ていますし、子供さえも見ています。そのことを議員たちに話してやりました。あらゆる人が一般の背後に隠されているものを見つけて出しているというのに私は彼ら議員のまねはしたくありません。父はジョージが他界してから一ヶ月後になくなりました」

そうだ、マドレーヌ・ロドファーよ、世界の人々は今や隠されている真実事を知り始めているのだ。われわれはいつの日かあなたに会うことを願っている。あなたの重荷が軽くなった日に。

もしわれわれが秘密裏に圧力を受けるならば、まだ数年はのろのろと歩まねばならないだろう。ジョージ・アダムスキーは言った。「目標に近づけば近づくほど敵はますます必死になって真相を隠そうとする」

敵とはだれか？ なぜ彼らはそうするのか？ それが義務なのか？ 誤って導かれた愛国心のせいなのか？ うぬぼれか？ 恐怖心によるのか？ 以上のうちのどれかだろう。

マドレーヌよ、もう一度言いたい事がある。あなたはこの戦いにおいて孤立してはいないということだ。あなたは多数の人々の好意と支持を受けている。その人々は古臭い心を捨てて、人々が他人の家を悩ませたり古いウソにかわって出現する新実を嘲笑したりすることのない新しい新しい社会の出現を待ち望んでいるのだ。



〔写真説明〕ここに掲げた三枚の写真はマドレーヌが撮影した映画フィルムのかなかの一部分である。日時は一九六五年二月二十六日午後四時頃。使用カメラはベル・ハウエル、ズーム・レフレックスタイプ、F 18 付き。

写真Aは底部の球形着陸装置の一個が殆ど完全にひっこんでいて、写真Bは球が出ていて、かなり全体の均整がとれている。写真Cでは球が再びひっこむ際のフォースフィールドの活動によって均整がくずれていることを示している。

この三枚の写真を比較してみると、どのような変化が起こっているかがよくわかる。Aは上部のドーム上に突起物が殆ど見えな
い。上部構造の垂直の壁に関連して球の位置が変わっているが、これは円盤が機体の中心を軸として回転した（自転した）ためである。これらの写真には円盤の正当性の証拠を示す多くの点が見られる。映画に出現するこの光景を想像されたい！

提案します

会員 友邦光和

全国に散在される会員の皆様に、借越ながら一つのアイデアとして提案します。一年のあいだにみなさまに「空飛ぶ円盤実見記」「空飛ぶ円盤同乗記」「空飛ぶ円盤の真相」「テレバシー」などを書店を通じて求めていただき、お近くの図書館に寄贈していただくのは如何でしょうか。そうすれば私たちはさらによりよいカルマを持つようになるでしょう。あるいはご無理かとは存じますが、そうすることによってまじめな人々の関心をうながし、それらの人々に新しい宇宙の事実を知らせることが出来ます。自分のセンススマインドから人は案外お金を使っているものかもしれません。右の本を読んだ人々がやがて世のため人のため奉仕するようになるのではないのでしょうか。また世の中や人の心も案外そうしたささやかなことで動いているのではないのでしょうか。右どうぞよろしくご配慮下さいませれば大いなるしあわせでございます。

生命の科学

G・アダムスキー
久保田八郎 訳

アダムスキーの哲学を生活で実践する方法を具体的に解説した絶筆。特に宇宙的想念を常時反覆思念することにより、難病を治癒せしめ日常生活に種々の奇跡を生ぜしめる方法を詳述。

B5 76頁 ¥300
〒 55

申込先 久保田八郎

宇宙哲学

G・アダムスキー
久保田八郎 訳

「テレバシー」「生命の科学」に続くアダムスキーの大偉業。スペース・プログラズから伝えられた深遠広大な哲学の精髓を記した現代最高の真理の書。これをもってアダムスキー哲学のシリーズが完結する。アダムスキー研究に必読の書であり、座右のバイブルとして不可欠であるが、少数限定版のため書店にはないので下記どうぞ。なるべく定額小為替を利用されたい。切手代用は不可。今後再版の見込なし。

新書版 100頁 ¥300 〒50

申込先 埼玉県鴻巣市原馬室4643の9
高橋 史(ちかし)

一月刊一 宇宙同好通信

日本GAP東京支部
発行

日本GAP副機関誌。ニューズレターに掲載されない興味ある有益な記事を満載。読者の投稿歓迎。本格的タイプ印刷。タブロイド版8頁。特に毎月の例会報告、研究発表等は一読に値する。ぜひ併読のほど。

1部送料共¥125
年間 " ¥1,000

申込先 東京都豊島区雑司が谷
1-29-7 太田方 安斎純夫

お知らせ

☆名称変更

過去二年間東京のG.A.P.グループは「宇宙研究同好会」略称「D」の名のもとに活動を続けてまいりましたが、別名称のために種々支障が生じますので、今年五月から「日本G.A.P.東京支部」と改称しました。同支部発行の副機関誌は従来どおり「宇宙同好通信」です。

*東京支部連絡先

東京都豊島区雑司が谷一丁目二九番七号、太田方

安 斎 純 夫

☆例会開催

右の東京支部は毎月二回例会を開催し、宇宙哲学の研修、研究発表、親睦懇談等を行なっています。都内及び近郊の方はぜひご参加下さい。

*会場

東京都世田谷区成城町五六一 中 田 晴 久

電話(四八三)一三五〇

*日時

毎月第一日曜と第三日曜の二回。午前十時より夕方まで。

会場へは小田急線にて「成城学園」駅で下車。北口から出て葬儀屋の角をまがり、北方へ直線道路を行けば徒歩で約十二分。バスならば「成城住宅行バス」により「住宅入口」で下車。「若葉町行バス」ならば「三番」で下車。いずれも駅北口より乗車。

昼食は当日会場にて実費で用意。携行品は「宇宙哲学」、その他研究発表を行なう人は資料等を持参のこと。

一 記 後

◎長くお待たせしました。ここに第34号をお送りします。本号は写真四枚を掲載したために費用がかさみ、やむなく減頁としました。ご了承下さい。

編 集

◎「生命の科学」と「宇宙哲学」はまだ在庫あります。いずれも再版の見込はありませんので、未入手の方は早目にご注文下さい。

◎ニューズレターの旧号は目下次のものが各少部数在庫しています。第28、29、30、33号。以上各一三〇円、送料三五円。一括ご注文の際は送料当方負担。七月には第32号を増刊の予定。

◎海外には多種類の優秀な円盤研究誌がありますが、その内一つを紹介します。デンマークG.A.P.は世界G.A.P.の指導的機関誌として「UFO CONTACT」と題する隔月刊誌を発行中です。アダムスキー関係の秘録等有益な記事が豊富な写真と共に掲載されています。英語に強い方には絶好の資料です。購読希望者は年間購読料千四百円(船便)か二千円(航空便)を送金されれば当方で取り次ぎます。

◎編者宛のご連絡は単に「日本G.A.P.」とされないで必ず久保田八郎宛として下さい。

日本G.A.P.ニューズレター 1967 第三四号

翻訳編集発行人 久保田八郎

発行所 日本G.A.P.

島根県益田市益田古川
振替・松江 二六三〇
(久保田八郎個人名義)

昭和42年
5月20日発行
不定期刊

頒価一三〇円・送料三五円
禁無断転載